幼馴染みと俺

たまちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
幼馴染みと俺

【Ｎコード】
Ｎ８９３４Ｙ

【作者名】
たまちゃん

【あらすじ】
幼馴染みはアメリカへ、俺は家の近くの高校へ行くことになり別れる
それから2年後・・・・・・高校2年生になるというこの日、無口で有名の琴瀬に話しかけられてから俺の日常が変化した
幼馴染みが帰ってきたのはいいが色々おかしい！　薬の実験台にさせられそうになったり、風呂に・・・・・・
ふざけんな！　こうなったら幼馴染みを元の普通の子に戻してやる！
そう思った主人公が幼馴染みの更正を目的に頑張っていくお話。

今日から高校2年

天才と呼ばれている幼馴染みと普通人である俺のこれから通う事になる高校は違う
幼馴染みはアメリカに行くらしい
少し寂しい気持ちをぐっと堪え笑顔で別れを言った

今日から高校2年になるという日に俺は

「ねむ・・・・・・」

そう言いながら学校へ向かっていた

「おっはよ～浩介(こうすけ)！」

後ろから思い切り叩かれる
後ろを向くと1年の時に知り合った佐伯(さえき)　優斗(ゆうと)が満面の笑みを浮かべていた

「朝からテンション高いな・・・・・・」

「これくらい元気じゃないと一日やっていけないからな」

「そう言ってどうせ全部の授業寝るんだろ」

「あたり！」

はぁ～・・・・・・・コイツはまったく

「そんな事より浩介・・・・・・あれ見たか？」

「あの不幸のビデオとか書いてあったやつだろ？　見てやったよ」

「なら今日お前は不幸になる！」

根拠の無い断言だなおい

「そうかい」

「あれ～？　不幸だよ？　怖くないのか？」

確かにビデオの方は怖かった

『不幸』の文字が中心にあってそれだけで終わりだしな

「そんな事より俺は眠いんだ」

「そうだよな・・・・・・これから不幸になるのは確定なんだ、今更怖がったってーーー」

最初に意見が合ったと思った俺が馬鹿だった

「あの」

「え？」

不意に声をかけられてすぐ後ろを向く

そこには無口で有名な琴瀬（ことせ）　鞘（さや）さんがいた

「髪にゴミがついています。　それとそっちの方がうるさいのでどうにかして下さい」

指さされた方を見ると優斗が何やら騒いでいた

「うぉ～～～！！！　鞘さんの生声だ～～～！！！」

・・・・・・そいえば優斗『鞘ファンクラブ』に入ってるとか言ってたっけ

鞘ファンクラブ・・・・・・それは鞘さんの虜になった人達が集まり、見守るクラブらしい

「・・・・・・わかった、優斗は黙らせる。　それとゴミついてたの教えてくれてありがとな」

「いえ・・・・・・それでは」

そう言うとすぐ歩き始めた

「さてと・・・・・・コイツどうしようか」

すでに別世界に意識がいっている優斗

凄く他人の振りしたいんだが

『うぅ～まだ薬の効果続いてるの～・・・・・・』

ん？　声が聞こえた気が・・・・・・まぁ気のせいだろ

最初の不幸

「勉学にしっかり励み高校生という自覚を持ってーーー」

校長の長い長い話
それを寝ないように他の琴を考え乗り切る
ちなみに優斗は寝てしまいマッチョ＋オネエという個性的な担任に
耳元で囁かれて震えあがっていた

「やっと終わった～」

背伸びしながらそう言う
さて、今日はもう終わりだし帰りどうしようかな

「あの」

「うぉ！」

また後ろからいきなり声をかけられ変な声がでてしまった

「・・・・・・？」

どうした？　みたいな目で見られてるよ俺・・・・・・

「な、何か用か？」

無理矢理話を戻した

「・・・・・・これから時間開いていますか？」

「ああ、開いてるぞ」

「なら後で私の教室にきて下さい」

「ああ、わかった」

そう言うと琴瀬は体育館から出ていった

「は・・・・・・殺気！？」

すぐに後ろを向くと優斗他男子数十名が俺を睨んでいた

「俺達の鞘さんを奪うとはいい度胸だな～浩介～」

そう言えば俺の自己紹介が遅れたな

俺は新田（にった）浩介（こうすけ）だ。　よろしくな

何て言ってる状況じゃないな・・・・・・

「逃げるが勝ち！」

「逃がすな！　A，Bグループは浩介を追え！　他は逃げ道の封鎖！」

何か後ろで無駄な結束力が発揮されてる気がする・・・・・・

「絶対に浩介・・・・・・いや、犯罪者を逃がすな～～～！！！」

「「「「「逃がすな～～～！！！」」」」」

これ・・・・・・琴瀬の教室行けるかな？

ーーーーー逃走中ーーーーー

「はぁ・・・・・・はぁ・・・・・・・・はぁ」

今俺は自分の教室の掃除道具入れの中にいる

灯台もと暗しってやつだよ・・・・・・まぁもう出られないんだが

「状況は？」

あれ？　この声優斗か？

「全部隊で捜索中ですが未だ姿を見せません！」

「そうか・・・・・・なら引き続き捜索を頼む」

「了解！」

まるで軍隊だな

まぁ本物の軍隊はもっと凄いんだろうけど

「さて、幹部の皆に集まって貰ったのだが」

幹部って・・・・・・

「質問がある。　鞘さんが犯罪者を呼んだのは何か用事があるからではないのか？」

「例えば？」

「委員会が一緒だとか」

「それは無い、確認済みだ」

「なら他に・・・・・・」

「貴様！　犯罪者の肩を持つのか！」

「もし間違いで拷問にかける事があれば俺達の保身に関わるんだぞ！　絶対に鞘さんが犯罪者を好きだという証拠があるのか！」

何故か家へ・・・・・・

「ぐ・・・・・・それは・・・・・・」

「無いのでしたらこれ以上大きくなる前に中断すべきです」

「それは絶対に出来ない！　もし今日鞘さんと犯罪者が会って間違いが起こったらどうする気だ！」

ないから！　絶対にないからな！

そんな言葉が出そうになるが堪える

「その時は我々が諦めるべきでは？　鞘さんの恋を邪魔すれば我々の事をどう思うかわからない訳ではないでしょう？」

「ぐぬぬ・・・・・・」

「ではこれより多数決を行う。　西都に賛成のものは席を立て」

席を立つ音が聞こえる

「４対２で西都の意見は却下だ」

い、いやだ〜〜〜！！！

「あの」

「「「「「「さ、鞘さん！？」」」」」」

「・・・・・・新田さんはいますか？」

「ここにはいませんが」

「・・・・・・ならここで待たせて貰います」

その言葉から何分たっただろうか
教室は静寂に包まれている

「・・・・・・いつになれば戻ってくるんでしょうか」

「さ、鞘さん！」

「・・・・・・何ですか？」

「鞘さんは浩介・・・・・・新田の事が好きなんですか？」

「・・・・・・彼には幼馴染みがいます。　天才の東山（とおやま）　絢香（あやか）さんです。　彼女がここ最近行方不明と聞いたので幼馴染みの新田さんなら何か知っているかと思っただけです」

「全グループに解散の指示を」

切り替え早！？

「ではここで待ってれば新田来ると思うので」

「・・・・・・わかりました」

それから1分くらい後に俺は掃除道具入れから出た

「・・・・・・ 早くして下さい」

「で、でもここは俺の家だし・・・・・・」

「・・・・・・ 早くして下さい」

「いや・・・・・・ だからーーー」

「・・・・・・ 早くして下さい」

「ーーーはい」

今俺は家の鍵を開けるよう強要されている
理由は約束を破ったからだそうだ

「・・・・・・ お邪魔します」

「どうぞごゆっくり」

琴瀬は何やらコンセントをじっと見つめている

「え～っと・・・・・・ 何をやっているのですか？」

「・・・・・・ 盗聴器のチェックです」

あぁ～なるほど～盗聴器ね～

「え～っと・・・・・・俺の家に盗聴器があるわけない・・・・・・・・・」

「・・・・・・ここにありますね」

「冗談は止めて下さい」

「・・・・・・ここにあります」

「あるわけ・・・・・・これ何ですか？」

「・・・・・・盗聴器ですが」

何故か家へ・・・・・・（後書き）

次話幼馴染み登場！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8934y/

幼馴染みと俺

2011年11月26日21時51分発行